域特性を生かしたリハビリを実施したりし、在宅復帰率の向上を目指している。

を整備。ケアマネジャーを対象とした勉強会を定期開催して情報共有したり、

マネジャーと密接に連携を図り、

積は香川県全域の面積に近く、

(2014年度)

と地域に欠かせない存在だ。同院は地域の医療機関やケア

急性期から在宅療養までシームレスなケア環境

地

患者さんは広域から来院。他院からの紹介率は62・

ビリテーション病棟をもち、

患者さんの在宅復帰を支援している。

同医療圏の面

Ň

ビリを行っている。

収穫物は栄養科と相

二次医療圏である最上医療圏内唯一の回復期リ

新庄徳洲会病院

(山形県)

は

サイエンス漢方処方研究会



「今回もレベルの高 い演題が集まりまし た」と井齋院長

静仁会静内病院(北海道)の井齋偉 矢院長が理事長を務めるサイエンス 漢方処方研究会はこのほど、今回で5 回目となる定例のシンポジウムとして、 都内で「The Best Case Study シンポ ジウム2」を開催した。14演題に加え 教育講演も行うなどプログラムは充 実。集まった多くの参加者は発表に

真剣に耳を傾け、さまざまな疾患に対する漢方薬の使 用症例を学んだ。

漢方薬の効果を科学的にとらえながら臨床現場に取 り入れ、医療の質を向上させていくのがサイエンス漢 方処方。井齋院長が提唱している概念だ。これを実践 するための情報共有や新たな知見の獲得、切磋琢磨 の場として設立されたのが同研究会。2016年4月末現 在、会員は医師、歯科医師、薬剤師、獣医師など 313人に上る。

井齋院長は「昨年以上の応募があり、今回もレベルの高い演 題が集まりました。多彩で活発なディスカッションが展開される と確信しています」と開会挨拶。

前回に引き続き演題を公募して症例発表会形式で実施。漢 方薬は幅広い疾患・症状に対して効果があることから演題の内 容は多岐にわたり、発表した医師も形成外科や麻酔科、内科、 神経小児科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、循環器内科などバ ラエティ豊か。演題からキーワードを拾っても、高齢者の足部 熱傷、内視鏡検査、外傷性頚部症候群、乳がん術後の筋肉痛・ 関節痛、術前不安、小児てんかん、嗄声、糖尿病患者の慢性 歯周病など多様だ。

徳洲会からの演題も1つあり、東京西徳洲会病院循環器内科 の川原隆道医師が「慢性腎臓病を合併した慢性心不全の治療 に五苓散が有効であった一例」と題し発表した。心不全があり 腎機能の低下した患者さんに対し、利尿薬を投与したものの効 果が不十分だったことから、体内の水分調節に効果がある五苓 散を追加投与。その結果、心不全症状や肺うっ血が改善、胸 水が減少、腎機能の悪化もなかった。川原医師は「さらに多く の症例の検討を通じて、腎機能低下をともなう慢性心不全患者 さんに対する五苓散の臨床的役割が明らかにされることが望ま れます」と結んだ。

教育講演は東京理科大学薬学部の堀江一郎助教による 「十全大補湯による腫瘍免疫活性化機序」。十全大補湯

はマクロファージやT細胞を活性化し、 補中益気湯はNK細胞を活性化するこ とにより、腫瘍転移抑制作用が認めら れている。

静仁

会静

内

病院

長

が

理

事

長

13

る

一つら

11

研

修で得た知識、技術、

は3職

しかし、その作用機序の詳細は不明 な点が多い。そこで堀江助教は、がん

てきたが、

免疫療法の新たな標的として注目され ている骨髄由来免疫抑制細胞(MDSC =腫瘍免疫を阻害する悪性化因子) に

対する十全大補湯と補中益気湯の作用に関する研究成果 などを発表した。

なお6月3日から3日間にわたり香川県高松市で開かれ る第67回日本東洋医学会学術総会では、「漢方薬をサイエ ンスする」というテーマのワークショップが予定されており、 井齋院長もサイエンス漢方処方について発表を行うほか、 同研究会のメンバーも発表する予定。また今夏には会員 向けのシンポジウムも計画している。

例

第5回

シンポ

T) と作業療法士 (OT) 各2人、看護師13人、

た。現在は理学療法士

さんが紹介されてく ることもある。

原圏を越えて患者

さんの治療にあたってき

(3月末時点) の患者 これまで延べ482 復期リハビリ病棟を開

|病院は11年7月

護士6人が専従し、非常 合他病棟兼務のスタッ

うやく地域の方にリ クチコミもあり、

前利用した方の

ょ

圏唯一の回復

地域特性を生かしたリハビリ



「その人が実際に生活できるかを考えてリハビリ

を提供しています」と早坂副主任 (左)と森PT フの協力も得ながら44 町3村) 同病棟は最上郡

0)

復

(1市 回

設と少なく 回復期リハビリ病棟を保 そのうえ山形県全体でも その守備範囲 有する医療機関数は21施 km² **嵐と、香川県(1876** ジリハビリ病棟であり、 病床機能報告)、 全域の面積に近 で唯一 (山形県14 は 1 8 0 4 0

府 『平成26年版高

齢社

推進課 取り巻く状況』) とみリハビリ科副主任は で見る山形県の高齢者を 形県健康福祉部健康長寿 高齢化率は30・8%(山 てきました」と、 な疾患は脳血 25 1 % 『平成26年デー 最上医療圏 ٤ 早坂ひ 全 タ

ベッドから立ち上がるなど生活 基本動作をしっかり訓練

院後の生活環境を退院前 だと指摘する その人が帰宅後、 った個別リハビリが重 同院では家屋評価

に評価、 必要に応じ改善 退

にも配慮した評

IJ

府

表する東京西病院の

川原医師

ハビリ病棟の存在を知っ ていただけるようになっ

護など高齢者医療にまつ

高齢者独居や老老介

る諸問題も一緒に考え

床

患者さんの平均年齢 管障害 沿った歩行訓練の通常 ていかねばなりません」 (早坂副主任)。 たとえばマニュアル

生活をし、どんな活動を さらには仕事、家事、 行うか〟という視点に立 味活動といった など生活上の基本動作、 着替える、 ハビリメニューより、 トイレに行く 〃実際に どんな 趣

げ 防 たことが、 知宏PTは具体例を挙 止につながります」と 退院後の引きこもり かにも降雪前にでき

ることが多く、 からはできなくなってい 雪深くなって 季節要因 松原徳洲会病院 徳洲会病院

種

Ĥ

白書 (概要版)』) 大 言語聴覚士も訓練に積極参加

要か調査。 を聞き取り、 を手配するサ

関までの段差や屋内の階 寝所からトイレまでの距 段 の有無、 前から患者さんや家族 に家族構成や生活環境 浴槽の深さ、 ŀ

後 離などを聞き出 でどのような介助が必 たとえば玄 生活場面 退院

より

口

ビリを行う。 の生活を見据えたリハ

復期リハビリを考えるな 幅に高いことから、

らスムーズに出られる環 て家を出ることを目標と たリハビリを行うこと 必要があれ り付けを提 「家か から、 トマトなど栽培、 院敷地の一角に畑を設け ション向上を目的に同 部をリハビリに取 患者さんのモチベ 一の付き添

案、手すりを伝って歩

ば手すりの取 境か確認し、

より高い家が多く

雪国だけに敷地が道

水まきや雑草取りなど のな い範囲で一 緒に行

示す。

していきます」と意欲を

について丁寧に情報提供 介助方法、福祉用具など るよう、リハビリ効果や 家族に安心していただけ

習所と連携、安全に運 そこで同院は運転シミュ をサポートしている。 ができるまでの機能回 レーターのある病院や教 多くが運転再開を望む。 脳機能障害の患者さんの 立たない方は多く、 できなければ生活が成り 院周辺は車社会で、 車の運 また、同院の患者さん 転も重要だ。 高次 運 復 転 転 司

報は、ケアプランを作成

評価しているかなどの情

するうえで非常に有用。

タッフが何をどのように 見込めるか、リハビリス って、どのような改善が

主任)。リハビリによ

る のら 通 で、 IJ れていきたい」(早坂

多く、早坂副主任は「ご

に不安を感じるケースが

ります。訪問リハビリや て良くなるのがわかるの かけにもなっている。 について、「目に見え 森PTは回復期リハビ ビリメニューを考案す -との情報共有に力を **状態、状況に応じたリ** と情報共有し、その人 **所リハビリのスタッフ** う後は、「ケアマネジ とてもやりがいがあ

を望むものの家族は介助

族に対する情報発信も図

あわせて患者さんや家

る。患者さんは在宅療養

は農家の方が多いこと 畑作業 0) 無 者 用 上がり、認知面への働きなどのアドバイスの声が を植えると虫が来ない」 頻 ヨ談 度や「マリーゴールド さんからも、水やりの ンや調理練習などに使 のうえ、レクリエーシ

ている。

きるよう連携深化を進め 軽に意見や情報を交換で 合同勉強会に参加し、気

人に対し指導者らが、 テーション研修するよう 関係者一同で祝杯を上 歯科医師の研修終了後に れぞれ思い出を振り 歯科医師1人、 修を無事終えた医師2人 わたるローテーション研 になったため、 つ祝辞を贈った。 には同院を離れる修了 了式を挙行。 同院は伝統的に医 は3職種合同 種合同で実施。 医師 看護師もロ 看護 昨年 2年間に 0) (大阪 返り 研 そ 1 げ ございました」などと謝 導 厳 と 本当にお疲れ様でした。 意を表した。 感れ役 を 吉田毅院長は「2年間 修了証とともに前途に **人生が続きます。この** ートで、これからも長 かしこれはあくまでス いただき、ありがとう しく、時に温かくご指 に満ちた笑顔で「時に ると、修了者らは達成 **坐つプレゼントが贈ら** かけて送り出した。 タッフらは温かい言葉 かあったら、いつでも 阮に帰ってきて」と各 看護師

かけ、

笑いを誘っていた。

ころですよ」とひと声を

研修修了者を囲み和やかに歓談

ともに、「仙台も良いと はなむけの言葉を贈ると この日は同院の佐野憲

げてください」と、人生 経験を生かし、今度は皆 総長(仙台徳洲会病院院 さんが新入生を助けてあ 長)も東北から駆け付け の先輩として声をかけた。